

芸備線再構築協議会第4回幹事会の開催結果について

1 概要

芸備線 備後庄原駅～備中神代駅間の交通手段再構築を議論する「芸備線再構築協議会」について、令和7年1月29日、第4回幹事会が開催されたため、その結果について報告する。

〔芸備線再構築協議会の概要〕

- 対象路線：芸備線
- 特定区間：備後庄原駅（庄原市）～備中神代駅（岡山県新見市）
- 構成員：中国運輸局（議長）、岡山県、広島県、新見市、庄原市、広島市、安芸高田市、三次市、JR西日本、学識経験者 ほか
- 位置づけ：特定区間の交通手段再構築を協議する場

※広域的な見地から特定区間以外の区間も含めて広島駅～備中神代駅間の区間について議論を行う。

2 現状・背景（経緯）

- 令和5年10月3日 JR西日本が、地域交通法に基づき、備後庄原駅～備中神代駅間における再構築協議会の設置を要請
- 令和6年3月26日 第1回芸備線再構築協議会 開催
- 5月16日 芸備線再構築協議会第1回幹事会 開催
- 7月10日 芸備線再構築協議会第2回幹事会 開催
- 10月16日 第2回芸備線再構築協議会 開催
- 12月25日 芸備線再構築協議会第3回幹事会 開催
- 令和7年1月29日 芸備線再構築協議会第4回幹事会 開催

3 議事

- (1) 芸備線再構築に関する調査事業の中間報告
- (2) 令和7年度実証事業
- (3) 令和7年度調査事業
- (4) その他（構成員からの意見）

4 議事の内容

- (1) 芸備線再構築に関する調査事業の中間報告
- 調査事業の進捗状況について、事務局から説明があった。
- 現在、沿線住民に対するアンケート及び関係団体ヒアリングを実施中であり、2月には、来訪者を対象としたアンケートを実施。
《主な聴取内容》
沿線住民：外出機会の目的・頻度・交通手段、芸備線の利用状況、芸備線の価値
関係団体：地域の現状や将来見通し、地域資源を生かしたアイデア
来訪者：訪問地、滞在中の消費額や交通手段、再訪可能性
 - 3月開催の第3回協議会での最終報告に向けて、今後、データやアンケート等の結果を総合的に分析し、実証事業の方向性のとりまとめや、地域経済効果の試算を行う予定。

構成員	主な意見
新見市	・ 最終報告に向けて、今後、実証事業につながる仮説の構築を行っていくこととなるが、「芸備線の可能性を最大限追求する」という共通認識に沿った報告になるよう改めて願います。
庄原市	・ 芸備線が持つ「定性的価値」について、今後、事務局主導で議論の場を設置していただきたい。 ・ その上で、ヒアリングやアンケートから得られた定性的価値とあわせて整理し、考えを共有した上で、可能であれば実証事業に反映していただきたい。
神田教授	・ 今後試算する地域経済効果は、データに基づき得られた数字が全てではなく、例えば駅を中心としたまちづくりや賑わいづくりなどにより、試算よりも効果が高まることが想定される。また、逆に下振れする場合もある。地域づくりとして沿線地域がどのように取り組んでいくかが重要である。

(2) 令和7年度実証事業

地域経済効果の試算を検証するために取り組む施策等について、事務局試案の提示があり、今後施策案を更に検討し、第3回協議会に向けて調整を進めていくことで合意。

《事務局試案》

- 二次交通との連携強化
 - ・ 芸備線の駅と二次交通の連携強化により、移動需要を喚起
- 観光・ビジネス需要への対応
 - ・ 観光やビジネス出張・産業視察等への対応により、移動需要を喚起
- 地域拠点としての駅舎・公共施設・商業施設の有効活用
 - ・ 駅等の拠点化により、駅周辺の回遊性・滞留性を向上
- 居住生活ニーズに対応した地域活性化・移住定住・まちづくり施策の推進
 - ・ 自治体が取り組む施策の推進により、鉄道の移動需要を喚起
- (今後の調査・検討の中で新たに立案された施策を追加予定)

※芸備線がもたらしてきた定性的な価値の評価・確認

・ 地域の関係者へのヒアリング・アンケート等を通じて得られた、定性的な価値について、調査事業において文書でとりまとめた上で、構成員間で確認

構成員	主な意見
広島県	・ 現在の芸備線の列車運行本数は、極めて少ない状況にある。 ・ 実証事業の実施にあたり、ダイヤの変更や増便、直通列車の設定などは、芸備線の可能性を追求する、全ての取組の「前提」と考えており、施策等に明確に位置付けていただきたい。 ・ また、取組の周知から定着に一定の時間を要することや、日常利用や観光利用における春夏秋冬の季節に応じた移動需要の変化を踏まえる必要があるため、実証事業を最低でも1年間は実施する必要があると考えており、目安とする3年を見据えて、実証事業に着手する必要があるが、現時点で、今後のプロセスが明らかになっていない。 ・ このため、3月の協議会では、国のリーダーシップのもと、ダイヤの変更や増便を実証事業の前提に位置付けるとともに、事務局で検討している実証事業案については、関係者の合意を含む実施に至るまでのプロセスや、実証事業を実施するための予算計上の時期など、今後のスケジュールを整理した上で提案していただきたい。 【⇒J R 西日本岡山支社】 実証事業における列車増便等について、協議会で決まった場合には協力するが、芸備線が単線であることや列車の行き違い駅が限定されるなどの物理的な制約があることは理解いただきたい。
岡山県	・ 第3回協議会において施策案を取りまとめるという方向性を否定するものではないが、現在調査を行っている状況を踏まえれば、施策案を取りまとめることありきではなく、3月時点の議論の進捗等を踏まえた対応となるよう、丁寧に進めてほしい。
新見市	・ 以前、J Rにおいて一定期間増便していただいたことは承知しているが、住民や企業の鉄道利用の意識の高まりもあることから、実証事業に当たっては、ダイヤ改正や増便に協力いただきたいと考えている。
庄原市	・ 現在は、全構成員確認のもとに、「芸備線の可能性を最大限追求する」段階にあることから、実証事業においては、J Rは列車の増便、運行ダイヤの変更など、最大限協力いただきたい。
J R 西日本	・ 実証事業は、調査事業の結果に基づき、潜在需要を喚起し、効果が高いと見込まれるものについて、構成員間で実施を決定するものと認識している。 ・ ダイヤの増便や変更については、芸備線が単線であることや列車の行き違い駅が限定されるなどの物理的な制約により、特に朝の時間帯の増便は困難であることは、理解いただきたい。 ・ 実証事業の実施方法としては、バスによる増便を行うことも考えられる。

(3) 令和7年度調査事業

令和7年度の調査事業について、次のとおり構成員間で合意。

- ・ 実証事業の実施中においても新たなデータ収集を行う調査体制を確保し、ファクトとデータに基づく議論を深化させていくため、来年度において、より専門的な分析等につながる調査事業が必要。
- ・ 調査の内容について、今後検討を重ねるため事務的に調整。

構成員	主な意見
広島県	・ この協議会は、「具体的なファクトとデータ」に基づいて議論していくことが共通認識とされており、このことを踏まえると、令和7年度以降に実施される芸備線の可能性を最大限追求するための実証事業の評価や検証について、調査していただきたい。 ・ また、「まちづくりや観光振興」の観点から議論することとされているため、鉄道がネットワークとして広域的につながっていることにより、特定区間以外の沿線地域も含めて得られる定量的効果などについて、調査分析を行っていただきたい。
岡山県	・ 来年度は、今年度の調査結果も踏まえて議論を更に深めていくことになるため、追加的な調査の実施を検討することについては、特に異論はない。
新見市	・ 議論の進捗に応じて新たに追加の調査分析を行う可能性があることは理解できるが、現在行っている調査事業や今後予定している実証事業がある程度進んだ段階で、まずは、どのような追加調査が必要なのかを把握する必要がある。

(4) その他（構成員からの意見）

構成員	主な意見
広島県	・ これまで、国土交通省からあった説明は、基本方針と大臣指針に基づき、再構築協議会の設置要件とJRの路線維持に係る努力義務の規定について従来の考え方の説明が行われただけであり、本県が求めてきた全国的な鉄道ネットワークの在り方についての具体的な説明はなされていないと受け止めている。 ・ この整理は、再構築協議会の議論の大前提であり、本県が求める3点について、未だ明確な回答になっていないため早期に回答していただきたい。 ①将来の国土の在り方を見据えた鉄道ネットワークの位置づけ ②国鉄改革の経緯やJRの経営状態を踏まえた内部補助の考え方 ③ローカル線の維持に係る国の責任の在り方 ・ また、特急列車や貨物列車、災害時等に貨物列車が走行する基幹的鉄道ネットワークを形成する区間以外の路線について ①国はJRの内部補助による路線維持は求めないということによいか。 ②そうであれば、貨物列車が走行する山陽本線以外の、芸備線や呉線、可部線、福塩線、木次線は、JRに路線維持を求めないということによいか。 ・ これらについて、前回の幹事会で、国土交通省から「本省内で共有する」との発言があったが、現在の国における共有の状況や内部における検討状況をこの場で伺いたい。 【⇒幹事長（中国運輸局交通政策部長）】 前回幹事会において、本省から、次回協議会に向けて省内で共有したいと発言があった。その後、現状において変化があったとは聞いていないが、改めて、状況を確認していきたい。
新見市	・ 調査事業や議論は進んでいるが、国のローカル線に関する考え方が示されないままの状況であれば、いずれ前に進まなくなる事態になりかねない。 ・ 国策として整備された鉄道ネットワークの一部だけを切り出した議論や、一部の自治体だけで判断し分断することは適切ではないと考えている。 ・ 国においては、ローカル線に関する考え方を次回の再構築協議会では示していただくようお願いします。

構成員	主な意見
神田教授	- この再構築協議会の議論は、単に鉄道か別のモードかの議論ではなく、地域の未来につながる大きい話である。 - J R 西日本が今後どのような形で地域の交通や地域づくりにコミットしていくのが重要で、議論の前提になると考えられるが、人やお金、組織など、J R がどのように関与できるか、現時点のイメージを回答いただきたい。 【⇒ J R 西日本岡山支社】 再構築後の地域交通プランの運営において、関係者がどのようにコミットしていくかについては、まずは自治体が主体的に関与し、中心的な役割を果たしていくことが前提であり、J R としては、どのようなモードに再構築される場合でも、積極的に関与していくものと考えている。 - 三江線の議論があった当時の状況と比べても、地域づくりにおける鉄道の役割や J R の関わり方はより重要になっていくため、J R から、こういう形で関与できるというものが示されれば、今後の議論につなげられるのではないかと。 【⇒ J R 西日本岡山支社】 J R としての具体的な関与の仕方については、全国的に事例があるので、一般的な例として、今後示す方向で調整する。

5 今後の対応

- 芸備線の可能性を最大限追求していく実証事業の前提として、ダイヤの変更や増便、直通列車の設定などが位置付けられるよう、国に働きかけていく。
- また、目安とする3年を見据えて、「実証事業において取り組む施策等」を早期に具体化し、着手していくため、関係者の合意を含む実施に至るまでのプロセスや、実証事業を実施するための予算計上の時期など、今後のスケジュールの整理を国に求めていく。
- 実証事業の具体化に向けては、庄原市と連携し、引き続き地元の商工団体、まちづくり団体及び観光・交通事業者等との検討を行っていく。
- 全国的な鉄道ネットワークの在り方の整理については、芸備線再構築協議会における議論の大前提であるが、今回の幹事会の場においても具体的な説明はなく、3月に開催される次回協議会の場において示すよう、引き続き国に求めていく。

6 その他

(1) 今後のスケジュール（予定）

令和7年 3月頃 第3回芸備線再構築協議会 （令和7年度以降も、順次開催）

(2) 予算（単県）

2,945 千円（令和6年9月補正）